

大阪府に大きな被害をもたらした過去の気象事例 「昭和27年（1952年）7月10日～12日の大雨」＜梅雨前線＞

近畿地方で大雨。大阪府で死者・行方不明者が89名など、大きな被害。

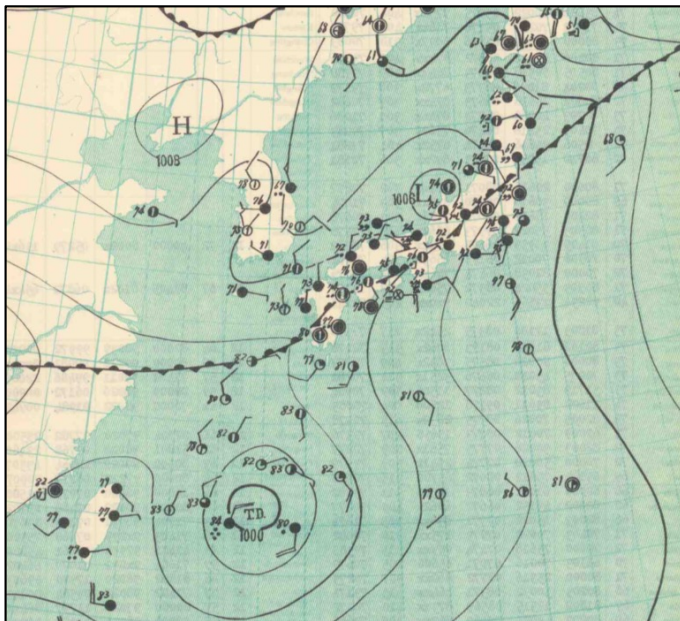
【概況】

日本の南海上まで南下していた梅雨前線は、7月7日になって北上を始め、九州から本州南岸に停滞した。この前線の影響で近畿地方を中心に大雨となり、期間降水量（7月10日～12日）は、和歌山で406.4ミリ、大阪178.1ミリ、神戸172.7ミリとなった。大阪では死者・行方不明者が89人となるなど近畿地方で大きな被害が発生した。また、7月10日の大阪の日降水量は143.8ミリ、7月11日の和歌山の日降水量は253.5ミリ（共に当時、7月として第1位）など、記録的な大雨となった。

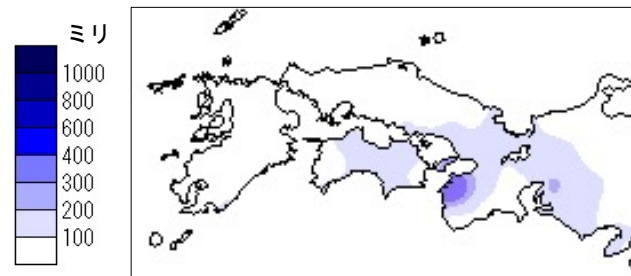
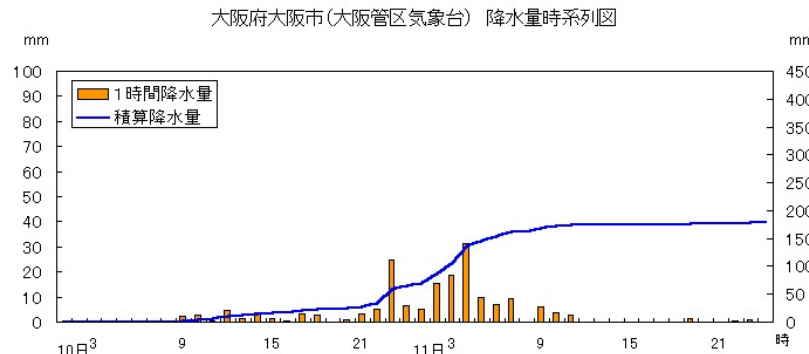
この大雨の影響で、大阪府内では以下の被害が発生した。

人的被害：死者41名、行方不明者48名 住家被害：家屋全壊・半壊187戸、床上・床下浸水192,238戸

（被害状況：大阪府ホームページ「大阪府を襲った主な災害」より）



地上天気図 7月11日21時



期間降水量 (7月10日～12日)

期間降水量（7月10日～12日）
（近畿地方の主な地点）

地点名	期間降水量
大阪	178.1ミリ
神戸	172.2ミリ
姫路	128.7ミリ
洲本	219.4ミリ
和歌山	406.4ミリ